

HYPER- (P) SYCHO-PASS

梗概

高校生の後藤哲哉（17）はHSP気質の持ち主であり、クラスメートから「ビビリ」とからかわれる日々を送る。

生きづらさゆえに人間関係や進路に悩む中、その鬱憤を晴らすかのように後藤の脳内では妄想が炸裂する。

妄想の世界ではHSPはサイコパスの上位互換であるHYPER-(P)SYCHO-PASSと化しており、後藤は捕食者として殺戮の限りを尽くしていた。

《登場人物》

後藤哲哉 (17) 高校生

望月莉奈 (17) 後藤のクラスメート

曾我部 (17) 後藤のクラスメート

りこ (16) 後藤のクラスメート

横山 (17) 後藤のクラスメート

愛菜 (17) 後藤のクラスメート

後藤律子 (40) 後藤の母

○高校・2年A組の教室前（放課後）

曾我部（17）、「りっ」（17）、横山（16）、愛

菜（17）、だべっている。

曾我部（枯れた声で）あーマジ腹立つわ」

りこ「なに？」

曾我部「後藤」

横山「後藤がどうかした？」

曾我部「いや、今日さ体育の授業で野球やって、ジャンケンで俺とアイツが審判やることになったんだけど、アイツ、全然声出さねえから出せってキレたら泣いてやがんの」

りこ「審判？ だから声枯れてんの？」

曾我部「いや、泣くとかキモいだろ」

愛菜「後藤ってHSPじゃない？」

りこ「それなんだっけ」

横山、スマホをいじる。

「HSP」と検索する。

○テロップ

「HSP Highly Sensitive Person の略。感受

性が強く、ストレスや不安を抱えやすい性質を持った人々」

○（戻って）2A教室前

横山、スマホを手にして画面内の文字を読み上げている。

横山「刺激に弱く、光や音に敏感。人目が苦手。人間関係に悩みやすく、生きづらさを感じやすい：マンボウみたいだな」

りこ「え。私 HSP かも」

横山「またまたー」

りこ「（横山を睨む）」

愛菜「ね。知ってた？ HSP の人って飲食店に一人で入れないらしいよ」

りこ「（後藤を真似て）ご、ごご後藤です。あっ、あっ、あっ、ラ、ラーメン、ひ、一つ、く、ください」

愛菜「似てるー（と笑う）」

横山「でも一蘭ならいけんじゃね？」

りこ「一蘭？」

○一蘭・店内

仕切りのついたカウンター席。

後藤哲哉（「」）、カウンターに座り、ボールペンでオーダー用紙にラーメンの好みを記入している。

横山の声「一蘭ってのは、店員に話しかけずにラーメンを注目できる斬新なラーメン屋」

後藤、カウンターについた呼び出しボタンを押す。

カウンターの奥から店員、やってくる。

後藤、記入した用紙を無言で店員に差し出す。

×

×

×

後藤、ラーメンを食べている。

愛菜の声「おかわりするときは？」

後藤、替え玉プレートを手に取り、呼び出しボタンの上に置く。

店内にチャルメラが響く。

店員、やってくる。

横山の声「プレートをおくとチャルメラが流れて店員がやってくるシステムになってる」

○（戻って）2A教室前

愛菜「てか何の話だっけ？」

りこ「（後藤の真似）ラ、ラ、ラーメンください！」

愛菜「しつこい（と笑う）」

りこ「うちら、明日から後藤のこと一蘭って呼ばない？」

横山「いやいや、アイツが一蘭いってるとは限らないでしょ」

曾我部「：なんか腹へってきたな」

横山「確かに」

平井（17）、やってくる。

りこ「おせー！」

平井「わり。先輩に捕まってる」

曾我部「いくぞ」

曾我部たち、歩いていく。

曾我部、立ち去り際、

曾我部「(叫ぶ) 後藤腹立つわー！」

と2A教室を見てニヤリと笑う。

○同・2A教室

後藤、学生鞆を抱きかかえ、身を隠すように佇んでいる。

○後藤家・外観(夜)

○後藤家・後藤の部屋

後藤、机で勉強をしている。

後藤、ため息をつく。

後藤、ペンをおく。

後藤、机の引き出しを開ける。

引き出しの中にナイフ、ピストル、手榴弾、など数々の武器。

後藤、ライフルを取り出す。

後藤、ライフルを持ち、ベランダの窓を

開ける。

○同・ベランダ

後藤、寝そべってライフルを構えている。

後藤、引き金に指をあてる。

○ライフルのレンズの中

酔っぱらい、歩いている。

直後、酔っ払いの胸に銃弾が命中する。

酔っぱらい、血を流して倒れる。

○高校・昇降口（翌日・朝）

曾我部、上履きをはいている。

横山、やってくる。

曾我部「おう」

横山「今日の柔道だりい。一緒にバックレね？」

曾我部、周りを見渡す。

曾我部と横山以外、人影がない。

曾我部「（怪訝そうに）…なんか変じゃね？」

○同・2A教室

曾我部、横山、入ってくる。

後藤、ひとり窓際に立っている。

曾我部「…？」

後藤、曾我部らのほうへ振り返る。

後藤、りこの生首を手にしている。

曾我部ら、仰天する。

後藤「（叫ぶ）曾我部——！！」

後藤、りこの生首を放り投げ、曾我部の

ほうへ走り出す。

曾我部、横山、逃げ出す。

○同・トイレ

曾我部、横山、個室に逃げ込む。

横山「どどどどうなってるんだよ?!」

曾我部「け、警察に連絡しろ！」

横山、スマホを取り出す。

横山、画面を見て、

横山「えっ?!」

曾我部「なんだ! どうした?!」

横山「いや、昨日調べてたページ……」

○テロップ

「HSP HYPER-(P) SYCHO-PASS の略。
サイコパスの上位互換。人間を捕食する凶暴
性を持つ」

○(戻って)トイレの個室

横山「文面が変わってる……」

曾我部「とにかく警察だ！」

外からドアをガンガンたたく音。

曾我部「!!!」

ドア、破壊される。

金属バッドを持った後藤が立っている。

曾我部、横山の背中を押す。

押された横山、後藤と接触する。

曾我部、その隙に個室から逃げ出す。

横山「曾我部！ ま、待ってくれ！」

後藤、横山にバッドを振り上げる。

横山、尻餅をつく。

横山「(悲鳴)」

○同・廊下

逃げる曾我部。

後藤、トイレからゆったりと出てくる。

○同・トイレの個室

横山、血を流して絶命している。

○同・廊下

曾我部、愛菜と鉢合わせする。

愛菜「どした？」

曾我部「ヤバイ！ 逃げろ？！」

愛菜「…？」

○同・校舎

曾我部、逃げている。

と、空から巨大な塊が落ちてくる。

愛菜の死体だ。

曾我部、腰を抜かす。

後藤が4階の教室の窓から顔を出す。

後藤「曾我部！」

曾我部、何とか立ち上がる。

後藤「曾我部！」

曾我部、逃げ出す。

後藤「そが…」

国語教員の声「(被さるように) 後藤！」

○同・教室

後藤、ビクリとする。

国語教員、後藤を見て、

国語教員「後藤。意識が飛んでたぞ」

周りから失笑が起こる。

国語教員「150ページを開いて続きを読むように」

後藤、慌てて立ち上がる。

後藤、パニックになりながら教科書をめくる。

後藤「(ぼそぼそと) わ、私は今にも変があり
そうなの…病室を退いてまた先生の手紙を読み

うと」

曾我部、わざとらしく咳払いをする。

後藤「(ぼそぼそ)しかし私はすこしも寛した気分になれなかった。机の前に坐るや…」

曾我部「聞こえませーん」

後藤、ますます声が小さくなる。

× × ×

国語教員「今日はここまで」

国語教員、去る。

後藤、うつむいている。

声「これ、落ちてたけど後藤くんの消しゴム？」

後藤、顔を上げる。

莉奈(17)が立っている。

莉奈、消しゴムを後藤の机に置く。

後藤「あっ」

後藤、頭を下げる。

莉奈「声、私はぜんぜん聞こえたけど」

後藤「…」

○同・柔道場

男子生徒ら、柔道着を着ている。

生徒¹と生徒²が組み合っている。

生徒¹、生徒²を投げ飛ばす。

体育教員「次！」

後藤と生徒³、立つ。

後藤と生徒³、向かい合う。

体育教員「はじめ！」

後藤、あっけなく投げ飛ばされる。

○同・昇降口（放課後）

帰宅する生徒たち。

○電車内

後藤、スマホをいじっている。

母から以下のLINE。

「仕事で夜遅くなるから晩ご飯なんか適当に
食べて」

後藤、LINEを閉じる。

ホーム画面に一蘭のアプリアイコン。

後藤「(アイコンを見つめて) …」

○駅前

後藤、とぼとぼ歩いている。

スマホ歩きをする通行人、後藤にぶつかる。

通行人「(舌打ち)」

後藤「(頭を下げる)」

後藤、足を止める。

後藤の視線の先に一蘭の看板。

後藤「…」

○一蘭・店内

後藤、入ってくる。

後藤、カウンター席に座る。

後藤、オーダー用紙を眺め、

後藤「(地響きする声で)味の濃さ基本！
こ
つてりど超こつてり！
にんにく少なめ！
ねぎ青ねぎ！
チャーシューあり！
秘伝の

たれ10倍！ 麺の固さ超かた！」

店員、カウンター越しにやってきて、

店員の声「ご注文承りました。少々お待ちください」

後藤、座ったまま、

後藤「三人やった！」

他のカウンター席から客1らが顔を覗かせ、後藤のほうを見る。

客1「おお！」

客2「さすが後藤さんだ！」

客3「後藤さんは俺たちHSPの中でも最強の男！」

後藤「(横山を真似て)ひひひひひひー」

客ら「(笑う)」

後藤「残りは曾我部だ！」

客1「曾我部の奴、風の噂じゃ後藤さんに恐れをなして町を飛び出したらしい！」

客2「マンボウみたいな奴だな！」

後藤「(叫ぶ)いいか！ 絶対に殺すな！ 生け捕りにしろ！」

× × ×

後藤、麺を貪っている。

後藤、食べ終える。

後藤、替え玉プレートを眺め、

後藤「(チャルメラを口ずさむ) トウルルル
ル、トウルルルルル！ トウルルルル」

○後藤家・後藤の部屋(夜)

後藤、勉強机でスマホを見ている。

スマホ画面に一蘭のアプリ。

「半替え玉引き換え券を取得しました」

のポップが出る。

と、ノックの音。

律子(ト)、入ってくる。

律子「ただいま」

後藤「…何？」

律子「ご飯何か食べた？」

後藤「うん」

律子「何食べたの？」

後藤「…ラーメンだけど」

律子「ラーメンか。醤油？ 味噌？ お母さ

んも夜ご飯ラーメンにしようかな」

後藤「…なんの用だよ？」

律子「あーそうだ。今度の三者面談、お母さ

んも仕事休んでいくから」

後藤「…別にいいよ。こなくて」

律子「そんなわけにはいかないでしょう。たぶん進路のこと聞かれるから、何話すかちゃんと考えときなさいよ。ちゃんと考えてる？」

後藤「…」

○高校・昇降口（数日後・朝）

生徒ら、登校している。

○同・教室

後藤、国語の授業を受けている。

国語教員「田辺」

田辺、教科書を手に立ち上がる。

田辺「（読み上げる）私はまた病室を退いて自分の部屋に帰った。そこで時計を見ながら、汽車の発着表を調べた。私は突然」

後藤「聞こえねえ」

田辺「∴私は突然立って」

後藤「聞こえねえっていつてんだ！」

田辺「∴私は」

後藤「聞こえねえっていつてんだよ！」

田辺、涙ぐんで座る。

国語教員「次。広瀬」

莉奈、立つ。

莉奈「（静かに読み上げる）私は突然立って帯を締め直して、袂の中へ先生の手紙を投げ込んだ。それから勝手口から表へ出た。私は夢中で医者の家へ駆け込んだ。私は医者から父がもう二、三日保つだろうか、そのところを判然聞こうとした」

国語教員「はい」

莉奈、座る。

国語教員「次。本間」

本間、立つ。

本間「(ハキハキと読み上げる)注射でも何でもして、保たしてくれと頼もうとした。医者
は」

後藤「聞こえねえ」

○同・図書室(昼休み)

後藤、本棚の前に立っている。

後藤、一冊の本を手にする。

本の表紙に以下のタイトル。

「HSPを向こうさる職業」

後藤「…」

後藤、本を広げる。

後藤「(読む)HSP。ハイパーサイコパスは強
靱なメンタルと人を人とも思わぬ残酷性を持
つことからテロリストの適性があります」

○同・昇降口(放課後)

生徒ら、帰宅している。

一人の生徒、大慌てで駆けてくる。

生徒「柔道場で後藤が暴れてるぞ！」

○同・柔道場

後藤、ライフルを乱射している。

後藤、逃げ惑う生徒を次々と銃撃する。

後藤、莉奈を見る。

後藤、撃たずに去る。

莉奈「…」

○電車内

後藤、立っている。

電車、とまる。

ドアの前で若者がたむろしている。

後藤、若者たちを手で払いのける。

後藤「のけッ！」

○駅前

後藤、歩いている。

後藤、立ち止まる。

後藤、ポケットから煙草とライターを取

り出す。

後藤、タバコに火をつけながら、一蘭の看板を見上げる。

○一蘭・店内

後藤、入ってくる。

後藤、座る。

後藤「(腹から声)味の濃さ基本…」

×

×

×

後藤、麺をすすっている。

客「の声」後藤さん！ いるか！」

後藤「なんだ！」

客「の声」曾我部が見つかったぞ！」

後藤、立ち上がる。

○ゲームセンター(夜)

曾我部、DFO キャッチャーをしている。

じゃがりこを狙っている。

じゃがりこ、落ちない。

曾我部「くそっ！」

声「曾我部！」

曾我部、振り返る。

後藤ら、立っている。

曾我部、慌てて逃げ出す。

○道

曾我部、逃げる。

後藤ら、追う。

曾我部、追いつめられる。

曾我部「なぜだ！　なぜ俺を狙う？！」

後藤「俺の陰口を叩いた！」

曾我部「それだけで！」

後藤「お前には俺が味わった苦しみと同じ苦しみを与えてやる！」

曾我部、フェンスを乗り越える。

後藤、両手を前に突き出す。

後藤「地球もろとも吹き飛ばー！！！」

手のひらからエネルギー弾を放つたれる。

フェンスが爆発する。

客「さすがは後藤さんだ！」

客「しとめたか！」

炎があがる中、逃げる曾我部の姿。

後藤「(舌打ち)」

(つづく)